IOM

Eldonas Kou MUKAI

2-12-12, ASAHIMACHI, ABENO, OSAKA, JAPANIO

11, Nov. 1983 N-ro 273

イオム通信

大阪市阿倍野区旭町2-12-2 向井 孝

ギョッとする!! 詩集を出してこそ判ってきたこと

▼ 詩集への感想を思いがけない人からもらったりして、毎日ニヤニヤよろこんでいる。へぼくはものすごい俗物なんやなァ、とこんどはほんまによくわかった)。詩集を出す前までは、(自分が詩集などもらったとき、どんな返事をかくかを思えば、よく知れるように)、挨拶代りにかいて出す感想は、まあそこそこの外交辞令がほとんど、忙しいときにはむしろ迷惑ー、そんな詩集なんて決して出すまい、と思ってたのに、例之一行でもかいてきてもらうと、その裏の裏の意味まで吸みとろうとよみかえす。みえすいたお世辞でも何でももう判別なしに受取って、ふうんそんな風によんでもらえたんかァー感激感謝して、部屋の中をぐるぐる歩きまわる。ほんまにうれしいもんや。郵便がこない日曜は、気がぬけたみたい。(その代り月曜はどさっ?ときて、借のたのしみ)。感想まだの方、敬老?サービスどうか、まってマース。芽村くん いい手紙ありがと。

▼ ガサ対策のため、ぼくは住所録も電話帳もない。それで来た手紙の封筒裏の来信者住所氏名の部分を切ぬいて発送用の封筒に貼る。その他「宛名記入、切手貼付」のイオム発送用封筒をまとめてもらってる方は、その一枚を抜いて発送するというシステム。どうか協力を。(7日)

◇◇◇◇◇

自分の心が縛られてしもて…ムーというのがその日のみんなの感想だった。

なんでやろか? その答を、ぼくは(詩をかくことで)見付けだしたわけである。

ワーたそてみると、家族たちの平和をかきみだして、戦争を仕掛けるのは、こっちになってるやないか…ム ワそこでゲリラの戦陣訓。「平和の力をこそ」が仮に答としての方向を出しているとしても抽象的すぎて、あいまいすぎる。〈詩〉として、この〈十一月二日の…〉をかいたことで、以来、ぼくの心にずっとかかっているのは、いつもそのことーそんな状況の中での具体的な闘い方ーだとも言える。

横浜店の展示広場いっぱいにはしやぎまわる子供と家族の団らん。

女装展示広場いっぱいにはしやぎまわる子供たちの平和。

こんど〈詩集〉を出して、改めてこの詩をよみかえしながら、みるみるぼくに判ってきたことはーあの白衣隊デーでみんなをとり囲んだ〈疑似的な平和〉は、(そして戦争を仕掛けるのが、こっちになっているどうしようもない平和は)、囲われた白衣隊構内だけでなく、白衣隊デーの一日のみにとどまらず、ぼくらの身のまわりの隣人たち、職場、学校、映画館から路上に至るまで、すべて全くそれそのものとして存在してぼくらの日常をおしつーんでいるーということ。しかも、そのことには、頭では判ったとしても、ほんとうにぎよっとする程には気付いてはいない、ということだった。そのことが、向野のあまりの大きいこともあわせて、容易に「答」を見出せない原因だということも一。

---

③ 「ぎよっとする程には、ぼくらは気付いてはいない」と言ったが、この詩集が出来上って、ざっと校訂がてらよみかえして(58頁「たしかに」前の空行〈ベル。附後〉補遺〉誤植。附但ミス。附後りから二行目「ら」の欠字)、目をとじ、自分なりの全体の印象をまとめようとしたとたん…「ええっ——」と声が出た。思わず「ぎよっ」として、まわりをみまわした。……

…この詩集の詩が、とくにP II部にあつめたものが示している警備の状況は、とても常識では考えられへんことやんか!

一詩集を出して

①〈熱烈歓迎?!自衛隊様〉〈十一月二日の、戦争と平和〉の二篇は、軍事費拒否関西グループが提起した行動に参加したルポ?だが前者はエライ苦労してなんども書き直したことで、自分ではなっとくした作品の部類にはいる。ところでこの詩集にかいたことの内容は、全部ホンマにあったことばかりなのだが、唯一、この〈熱烈歓迎…〉だけは、一部だけ事実とちがっている。それはぼくら20人あまりがホームで、隊員に呼びかけた内容が、詩とは全くさかさまの「お国の為にいさぎよく死んで下さい」「もう二度と帰ってこんでエエよー」「は よ戦死するように、ガンバリやァー」という多分に皮肉な意味をこめたものだった。そのときぼくは、なんかがノドにつかえて、声がすうっと出にくかったのだが、詩としてそれをかこうとして、またそこでつかえた。そしてようやく、改悪のように改訂することで落付いた。

それは、相手と自分との関係を単純に敵・味方に二分してしまうことで尚更、相手を敵へと押しやっているーというあやまちを実感的に思い出すとともに、そうであってはならない闇いの方向性ーどのように闘うかーを、(詩が)明らかにするものだった。

---

②後者〈十一月二日の…〉は、前夜ビラ作りを一しよにしたが、ぼくは現地へは行かず、逮捕などの事故時の連絡電話番として事務所詰だった。で、ふう子さんからの報告を聞きとってかいた。まるで見てたようや、と言われたが、もう7年ほど前の岩口米軍基地オープンデーでみた状景が、重なっている。

『ビラ渡そうとしたら、みな隊員の家族にみえる四ことアカン…